

平成29年12月1日

行政視察活動記録

教育民生常任委員会
委員長 大山 博道

年月日	平成29年11月13日（月）から14日（火）まで
場 所 及び目的	広島県三次市 市立三次中央病院の地域包括ケア病棟の運営について （市民病院の将来像と地域包括ケアシステムの構築について） 広島県広島市 教育関係施設の複合化について （教育施設の整備方針について）

年月日	平成29年11月13日（月）
相手方 及び目的	三次市福祉保健部健康推進課・市立三次中央病院事務部医事課 市立三次中央病院の地域包括ケア病棟の運営について （市民病院の将来像と地域包括ケアシステムの構築について）
内容・ 結果等	<p>三次市は中国地方の中心部に位置し、山陰、山陽を結ぶ文化・経済・交通の要衝地であり、交通網が整備された歴史ある城下町である。ブドウの栽培が盛んで、1994年開業の三次ワイナリーは観光の中心施設であり平日にもかかわらず、多くの観光客が訪れていた。</p> <p>市立三次中央病院（以下「中央病院」という。）は県北の中核病院として、また、隣接地に県立三次看護専門学校を擁する病院であり、一般病床350床、医師数72名、看護師配置7対1体制となっている。</p> <p>医師の確保については、広島県の医療を担う人材を広島県と広島大学が連携して育てていくことを目的とした広島大学医学部医学科推薦入試制度を利用している。この入試制度は「ふるさと枠」と言われ、年額240万円の奨学金を受けられるもので、奨学金の貸付期間の1.5倍に相当する期間を広島県内の公的医療機関等において医師の業務に従事するなどの条件があり、その奨学金を利用して大学を卒業した医師が中央病院などの公的医療機関に派遣されることから、地域医療に大きく貢献している。</p> <p>特にすばらしいものは救急医療体制であった。</p> <p>三次地区医師会と中央病院及び大学病院が連携し、休日夜間の軽症患者の救急医療体制の整備、充実を目的に「三次市休日夜間急患</p>

センター」(受託者は三次医師会)を開設。急患センターでの診察の結果、軽症の場合は急患センターで応急処置。重症で手術や精密検査が必要な場合は中央病院へ紹介、搬送するなど救急医療体制が明確化されていた。

地域包括ケアシステムの構築についても、市、中央病院、医師会、開業医との信頼関係が良好であり、これらを背景にして、行政部局と医師会との円滑な連携体制のもとに成り立っていることが分かった。効果的な地域包括ケアシステムの構築には、関係する機関等の職員またはスタッフ同士が、お互いに顔が見える形で情報を交換・共有することが重要であり、複数の団体が一体的な組織づくりに努めていくことが重要であることを確認できた。

今回の研修で得られた内容を本市の現状と照らし合わせ、より一層、保健・医療・福祉サービスの向上に繋がるよう提案していきたいと考えている。



備 考

(参加者) 教育民生常任委員会委員 7名、市民病院 1名
教育委員会事務局 1名 議会事務局 1名 計 10名

年 月 日	平成 2 9 年 1 1 月 1 4 日 (火)
相 手 方 及 び 目 的	広島県広島市教育委員会事務局総務部施設課・市民局市民活動推進課・同局生涯学習課 教育関係施設の複合化について (教育施設の整備方針について)
内 容 ・ 結 果 等	<p>広島市は世界史上初めて原子爆弾で爆撃された都市であり、原爆投下後は一時的に人口が 2 0 % 減少したが、戦後は重工業や自動車産業を中心に復興し、現在では日本の主要な工業都市となっている。地理的には山陽地方のほぼ中南部に位置しており、太平洋ベルトを構成する広島都市圏の核となっている。</p> <p>合人社ウエンディひと・まちプラザ（広島市まちづくり市民交流プラザ）（以下「プラザ」という。）は、袋町小学校と生涯学習やボランティア、市民活動を総合的に支援し、まちづくりと市民交流を進める拠点施設との複合施設として広島市が平成 1 4 年 5 月に建設したもので、広島市中心部に位置し、商業地域と住宅地域が混在するエリアにある。</p> <p>袋町小学校は爆心地から 4 6 0 m の位置にあり原爆により大きな被害を受けた。現在は、被爆建物として一部保存し「袋町小学校平和資料館」として被爆資料を展示している。</p> <p>北棟には袋町小学校（地下 1 階～6 階部分、6, 4 5 1 m²、事業費 2 6 億 5 千万円）と児童館（1 階～2 階の一部、4 0 1 m²、事業費 1 億 4 千万円）が配置され、プラザ（5, 8 4 5 m²、事業費 2 5 億 4 千万円）は、西棟（1 階～4 階）と北棟（4 階～6 階）に分けて配置されていた。</p> <p>袋町小学校は、校舎、屋内運動場の老朽化等により危険建物として文科省から認定され、児童館とともに全面改築することとなったもので、地元から「地域のにぎわいを創出する意味からも多くの市民の利便に供するような複合化を考慮した学校とすること」との要望を踏まえ、土地の高度利用を図るとともに、市民の主体的な町づくりに向けた活動の拠点、生涯学習、ボランティア、市民活動を総合的に支援するプラザと一体的に整備した。</p> <p>これまで、敷地に点在していた学校施設を一棟に集約し、重層化を図ったことから校地の有効利用が可能となり、同時にプラザ職員や地域の方々と共に美化活動や文化交流が行われていた。</p> <p>計画当時、複合化により、児童と市民との学習や交流による学校教育の活性化などの相乗効果が期待されたが、児童の安全面、運営の問題から、学校エリアのセキュリティの重視という点により市民交流の場とは一線を画している。</p> <p>プラザでは、イベント、会議、研修等、多彩な活動ができるよう様々な設備、部屋、活動スペースが完備され利用者ニーズに対応し</p>

ており、学び、相談の場として、行動する個人、グループ、NPOを
支え応援する事業を展開するとともに、生涯学習、ボランティア、
市民活動の情報収集の場としてプラザは総合情報施設として機能し
ていた。

このほか、イベント、講座や市民活動団体の活動情報等を「ひろ
しま市民活動支援総合情報システム（a-ネット）に登録するととも
に、パンフレット等を活用して様々な情報発信を行っていた。

以上の施設がコンパクトに市内の中心地に展開され、袋町小学校
の伝統を守り、被災からの復興に長年努力を積み重ねてきた広島市
民の情熱と連帯感をベースにまちづくりを進めていた。

本市においても、財政規模、歴史は大きく違うかもしれないが歴
史を守りつつ、市民の賑わいの場を確保するための考え方として、
共通の方向性を感じるとともに、施設の複合化を計画する場合は、
十分な利用形態などを考慮した計画策定が必要であることを認識し
た視察であった。



備 考

（参加者）教育民生常任委員会委員 7名、市民病院 1名
教育委員会事務局 1名 議会事務局 1名 計 10名